



秋 闌（あき たけなわ）

校長 佐々木 秀之

観測史上最も暑い夏でしたが、「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉のとおり、うだるような暑さはいつの間にか爽やかな風へと変わり、虫の声の便りが聞かれるようになってきました。まだ夏日になる日はあるものの、「スポーツの秋」「食欲の秋」「読書の秋」というように、秋闌を迎えます。

＊

「**スポーツの秋**」 夏のうだるような暑さや、思わず身を縮めてしまう冬の寒さを考えると、秋晴れの日の爽やかな風や太陽の心地よさはスポーツをするのにはピッタリです。「スポーツの秋」という表現の明確な由来はないそうですが、10月に「体育の日」があったからと考えられています。2020年からは「体育の日」は「スポーツの日」に名称が変わりました。文部科学省が1966年に出した通達には、「スポーツに親しみ、健康な心身を培う」ことが「体育の日」の制定の趣旨とされています。全国各地では、ジョギング大会や各種スポーツ教室、トップアスリートによる講演や参加型の競技など、様々なスポーツイベントが行われています。

「**食欲の秋**」 9月はまだ残暑があり、食欲がわからないという方もいるでしょう。過ごしやすい気候で食事がとりやすく、秋の味覚が味わえる10月から11月頃が「食欲の秋」と言えます。栗やサツマイモ、ブドウや梨など、旬を迎える味覚がたくさんあることも、食欲が増す理由の一つとして挙げられます。おいしい食材が出回る季節に食欲が増すのは当然のことと言えるでしょう。

「**読書の秋**」 8世紀頃、唐王朝の時代に活躍した中国の韓愈（かんゆ）という詩人が、自著「符読書城南詩」の中に記した「時明積雨霽 新涼入郊墟 塔火宵稍可親 簡編可卷舒」（秋になって長雨が終わって空も晴れ、涼しさが丘陵にも来ている。ようやく夜の灯に親しんで、書物を広げられる）という詩に由来するそうです。この詩を文豪 夏目漱石が小説「三四郎」の中で引用したことで秋は読書をするイメージが広まったと言われています。10月27日から11月9日にかけての「読書週間」は、戦後間もない1945年に「読書の力で平和を築く」ことをコンセプトに始まり、現在まで続いています。

＊

子供たちは7日の運動会に向けて、練習に取り組んでいます。まだ夏日となる日もあるため、空調の効いた体育館を主な練習場所としています。年間の授業時数が、コロナ前のような余剰時数が取れないため、十分な練習はできませんが、ぜひご来校いただきご声援ください。